

1. はじめに

デスクトップに常駐し、ユーザに各種情報を提供するツール群としてウィジェット(ガジェット)が存在する。しかし、基本的に各種設定をポップアップメニューで行っているので PC 初心者には使い勝手が良くない。便利なツールであるはずのウィジェットを利用しない理由として操作の難しさが挙げられるほどなので、よりグラフィカルなインターフェイスを提供する必要がある。

本研究では GUI 提供の一形態としてデスクトップマスコットをインターフェイスとして使用する。

2. 仕様

代表的なウィジェットは JavaScript で XML を制御して実行されている。このため、今回製作するウィジェットもそれに倣うこととする。また、JavaScript エンジンとして google が開発したオープンソースである Google V8 JavaScript Engine を使用する。

ウィジェットツールはデザインを定義する XML ファイルと機能を定義する JavaScript ファイル、必要なリソースをまとめて zip ファイルに圧縮した形態で提供される。

ウィジェットエンジンのデフォルトインターフェイスとしてデスクトップマスコットを使用する。これはマスコットをウィジェットツールとして扱うのではなく、デスクトップマスコットの一機能としてウィジェットを提供するという形式を取る。これにより、マスコットのデザイン変更が容易となる。

なお、本プログラムは C++ 言語で開発し、Windows 上での運用を想定している。

3. 結果



図 1 mascot_system.exe 実行例

4. 結論

デスクトップマスコットからウィジェットを起動するという試みは、これまでに無いものである。これは、デスクトップマスコット自体に機能を埋め込むという方法が主流だったためであり、デスクトップウィジェットが登場すると、ウィジェットのひとつとして提供されるようになったからである。

本研究ではウィジェットの 1 機能としてではなく、ウィジェットエンジンとして開発し、ウィジェット管理の問題を解消することを目的としている。最大の目的であるツール管理については、チェックボックスを使用して利用するウィジェットを選択するようにし、カテゴリを分けて保存することで目当てのウィジェットを検索しやすいようにしている。

また、V8 エンジンを導入した結果、JavaScript と Jscript の両方を使用可能になっているため、互換性の向上を図ることができた。

実際の運用テストでは、ウィジェットの選択、登録の操作が容易になったという結果も得られている。このテストの結果から、マスコットを通して操作するという方法は有効だといえる。

5. 今後の発展

本研究ではウィジェットをカテゴリ分けするようにしているが、この作業はユーザに無用の負担をかけるため、自動化されるべき項目である。案としてはカテゴリを記述した INI ファイルをウィジェットツールのパッケージに同梱するか、XML ファイルにカテゴリを記述することで、読み込み時に自動仕分けを行わせるというものがある。これにより手動でフォルダ分けする際に発生しうる分類間違いなどのヒューマンエラーを無くすという効果も期待できる。

文献

- [1] 松浦健一郎・司ゆき, “デスクトップマスコットを作ろう!!”, March.2003
- [2] マイボイスコム(株), マイボイスコム定期アンケート(デスクトップアプリケーション), (June.2006)